

公共施設

図書館をもっと 使いやすいものにしよう

住田景子議員(緑ネ) ①昨年

10月から祝日開館が始まったが、利用状況と利用者の反応は。

②中央館、地区館、分室で開

館時間と休館日が異なり、利用者にはわかりにくいので、全館の開館時間を午前9時から午後7時まででできないか。

③国分寺市、小金井市とも相互利用ができないか。

教育長 ①平日と同程度の利用状況で、利用者には好意的に受けとめられている。

②現在の開館時間で利用者には定着していると考えている。

また、開館の準備時間が必要なこと、インターネットによる蔵書予約が24時間可能なこと、開館に伴う経費の面から、今後現行の開館時間で行いたい。

③今後の研究課題としたい。

市立図書館の 蔵書の充実

浅倉成樹議員(公明) ①過去

10年間の蔵書数の変化は。
②購入の流れと予算額は。また、選定基準は。

③蔵書の確保、充実に対する市の考えは。

教育長 ①平成6年度が約11万冊、平成15年度が約20万冊で、10年間はこの数字の間で推移している。

②図書購入は、各館の職員で構成される選書委員が決定している。

平成14年度以降の予算額は、4千2百万円から4千4百万円である。選定基準は、中央館は伝統的な価値を有すると思われる図書を重点的に、地区館は教養の向上、日常生活に役立つ図書等を重点的に購入しており、中央館、地区館及び分室の収書分担を購入基準を網で定めている。また、公平に自由に偏見なく収書することを定めた選書要領等を指針としている。

③利用者の要望には、おおむねこたえられており、今後も現在の水準を維持していきたい。

地域発信型の 地域センターに

津本裕子議員(公明) ①全館

の平均利用率は。また、市が主催するもの内容は。

②利用者懇談会を設置する考えはあるか。また、地域特性のある地域発信型のセンターが望



花小金井南地域センター

ましいと考えるが市の見解は。

③ボランティア登録等も行われて地域とのかかわりが望まれているが、各館の実施状況、運営状況は。

市長 ①平成15年度の平均利用率は52.6%である。市もしくは市に準ずる団体の利用は50%あり、生きがいデザインサービスなどがある。

②貸し施設という位置づけから設けていない。利用者からの要望もなく、設置の考えはない。各館の特徴をPRし、地元根づいた地域センターにする工夫をしたい。

③花小金井南地域センターでは当初10人の登録があり、庭木の剪定や除草等を行っている。

図書館業務と 団体貸し出しの改善

木村まゆみ議員(共産) ①中

央図書館の蔵書数、年間利用人数、職員の配置状況は。

②業務内容、業務量から見て人員は適正か。

③団体貸し出し制度の市民への周知はどうか。

④団体貸し出しの現状は。

⑤保護者などのサポートにより、貸し出すまでの日数を短縮できないか。

教育長 ①平成15年度は41万9千8百60冊、12万1千4百37人である。職員は正規が17人、嘱

託が10人、臨時が6人である。
②職員の配置は適正と考える。
③案内ちらしの配布や司書教諭等連絡会で周知している。

公園・用水

グリーンロードの さらなる跳躍のために

永田政弘議員(政和) ①トイ

設置計画の進捗状況は。

②昨年、中央公園で同時開催した彫刻展及び収穫感謝祭とグリーンロードウォークの評価は。

③グリーンロードに係るボランティアの活動内容は。

④中央公園の既存施設をPRセンターとして活用できないか。

市長 ①トイレが設置可能な公園を2か所ほど選定したが、設置については場所的なバランス等も勘案し検討している。

②文化の向上と産業振興及び健康の増進を図り、相乗効果のあるイベントとして評価する。

③玉川上水の自生野草保護育成、あじさい公園の整備、各種イベントへの参加協力等である。

④既存施設のログハウスは狭く、警備員等の休憩場所として使っているため活用は難しい。

グリーンロード推進協議会 からの提案への対応

島村速雄議員(政和) ①斎藤

素蔵グリーンロード美術館計画について、市の考えは。

②ブルーベリーの里こだいら構想についての対応は。

③ふるさと定期市計画について、ふるさと村の協力は可能か。

④玉川上水下流域の一部を山桜復活ゾーンとして位置づけることについての見解は。

市長 ①市が寄贈を受けたプロ

④平成16年度は2学期までに1万1千9百89冊を貸し出した。
⑤希望により、保護者等の持ち帰りも行う。

ンズ作品を活用して、グリーンロードの活性化を図る大変有意義な提案と受けとめ、積極的に取り組んでいく。

②立ち上げる予定の農のあるまちづくり推進協議会の検討課題の一つと位置づけ、東京むさし農業協同組合と連携をとりたい。

教育長 ③ふるさと村の用途や目的を妨げない範囲で協力していきたい。

市長 ④復活への課題もあり、当面は協議会を中心とした活動を注視し、適切な対応をしたい。

医療健康

小平市の小児医療の現状と 都立清瀬小児病院存続

華表 暁議員(共産) ①市内

と北多摩北部保健医療圏各市の小児科医院・産婦人科医院数の推移は。

②公立昭利病院、都立清瀬小児病院の平成16年1か月当たりの小児科外来患者数は。

③都立清瀬小児病院統合について、市長会としての対応は。

④健康センターの平日準夜体制を24時間体制にした場合の費用は。

市長 ①平成16年12月末の市内小児科医院は47か所、産婦人科医院は4か所それぞれ減少し

ている。西東京市の小児科医院がふえている以外は、いずれも小平市と同様減少傾向にある。
②公立昭利病院は約千6百10人、都立清瀬小児病院は約千4千8百49人である。
③毎年度に対する予算要望の中で、存続を求めている。
④実施は不可能だが、仮に実施した場合、人件費だけでも1億1千万円程度かかることを考える。

小児科医が常駐している 公立昭利病院

常松大介議員(緑ネ) ①自動

体外式除細動器の取り扱いについて、昨年厚生労働省の見解が変更されたがその内容は。

②市内での導入状況は。

③市内公共施設に導入する必要性を認識しているか。

④導入予定の自治体は。

市長 ①ある一定の条件を満たす場合、医師免許がない者も講習を受けることで除細動器による応急手当ができるという見解が出された。

②健康センターに医師が使用できる除細動器が1台ある。市内の導入状況は把握していない。

③設置の有効性、重要性は十分理解しており、導入する方向で検討していく。

④平成17年度は、都内で5区8市1町が導入する予定である。

加藤俊彦議員(公明) ①市内には、医療機関のない地域があるが把握しているか。空白地域の医療体制をどう考えるか。

②市はかかりつけ医の必要性をアピールしているが、身近に医療機関がない地域に対してどのように考えるか。

③空白地域への医療機関誘致を医師会と連携して行えないか。

④救急医療体制の整備を図るべきと考えるかどうか。

市長 ①上水本町と御幸町には医療・歯科がないが、市内全域見ると医療体制は充足されていると考える。

②市内には多くの医療機関があるので、それほど遠くに行かなくても利用できるかと考える。

③難しいと考える。



医療機関の 空白地域対策

加藤俊彦議員(公明) ①市内には、医療機関のない地域があるが把握しているか。空白地域の医療体制をどう考えるか。

②市はかかりつけ医の必要性をアピールしているが、身近に医療機関がない地域に対してどのように考えるか。

③空白地域への医療機関誘致を医師会と連携して行えないか。

④救急医療体制の整備を図るべきと考えるかどうか。

市長 ①上水本町と御幸町には医療・歯科がないが、市内全域見ると医療体制は充足されていると考える。

②市内には多くの医療機関があるので、それほど遠くに行かなくても利用できるかと考える。

③難しいと考える。

市内施設における自動体外式 除細動器導入の必要性

常松大介議員(緑ネ) ①自動

体外式除細動器の取り扱いについて、昨年厚生労働省の見解が変更されたがその内容は。

②市内での導入状況は。

③市内公共施設に導入する必要性を認識しているか。

④導入予定の自治体は。

市長 ①ある一定の条件を満たす場合、医師免許がない者も講習を受けることで除細動器による応急手当ができるという見解が出された。

②健康センターに医師が使用できる除細動器が1台ある。市内の導入状況は把握していない。

③設置の有効性、重要性は十分理解しており、導入する方向で検討していく。

④平成17年度は、都内で5区8市1町が導入する予定である。

道路

七小通りの西武線踏切と 付近の通りの安全対策

佐藤 充議員(共産) ①今日

までの事故件数とその内容は。

②市としての改善策は。



七小通りと西武線踏切

③踏切の小平駅寄り部分の拡幅と歩行者用通路の確保等はできないか。

④警報機等の時間調整などを西武鉄道と協議できないか。

市長 ①小平警察署からは、本年1月末までに踏切の北側、及び南側の市道との交差点で乗用車と自転車の接触が1件ずつ発生していると聞いている。

②関係機関と連携して、交通安全教育の充実を図りたい。

③踏切の幅員は交差する道路の両側の幅員に合わせて決まるため、道路の幅員なしに歩道を設置することは困難である。

④時間調整等は鉄道会社の定める時間で設定し、安全対策を図っていると聞いている。

幼児、児童、高齢者の 交通安全対策、交通安全教育等

高橋信博議員(政和) ①幼児、

児童、高齢者の交通安全対策、交通安全教育、交通安全活動に対する市の取り組みは。

②昨年12月、商工会等が十一小で親子自転車安全運転教室等を実施したが、市の考えは。

③児童等に対する交通安全教育の考え方は。

④交通安全上の路側帯とは。

市長 ①関係機関と連携して幼児、児童等の交通安全意識の高揚等を促進するなどしている。

②産業団体の働きかけによる

初め取り組みとして評価する。
③心身の発達段階に応じて基本的な交通ルールを遵守させるとともに、日常生活において安全に道路を通行するために必要な動作、及び知識を習得させるために必要と考える。

④歩道のない道路において、歩行者と自動車を分離して歩行者が安全に通行できるように設けたものである。

小平市の まちづくり、道づくり

佐藤 充議員(共産) ①今後

のまちづくり、道づくりの構想をどのように考えているのか。

②改善策として、主に東西に通り返る生活道路をつくる等の計画はあるか。

③市は宅地開発業者に対し、東西道路計画等をどのように指導しているか。

市長 ①南北道路に対し東西道路が少ない地域があることは認識しているが、整備費用の課題等があり、南北道路に接続する連続した東西道路の整備は困難と考える。

②土地区画整理や都市計画道路の整備により行っている。

③新設道路は、開発区域周辺の道路と接続可能な場合は接続するよう、また、接続できない場合でも将来の土地利用を考慮した指導をしている。